

複雑性虫垂炎に対する腹腔鏡下手術について

わか つき とし ろう やま だ よし のり ひさ みつ かず のり
 若 月 俊 郎 山 田 敬 教 久 光 和 則
 かじ たに しん じ こう の きく ひろ
 梶 谷 真 司 河 野 菊 弘

キーワード：複雑性虫垂炎，腹腔鏡下虫垂切除術，術後合併症

要 旨

複雑性虫垂炎に対する腹腔鏡下手術は術後合併症が多いと報告され、その評価は定かではない。そこで、当院で施行した複雑性虫垂炎に対する腹腔鏡下手術と開腹手術とを比較検討し腹腔鏡下手術の安全性と有効性について検討した。

対象症例は、腹腔鏡下手術 LA 群63例、開腹虫垂切除 OA 群34例で、手術時間は LA 群で長時間であった ($p < 0.001$) が、出血量は LA 群で少量であった ($p < 0.01$)。術後入院日数は LA 群で有意 ($p < 0.05$) に短期間であり、術後合併症は、LA 群で低い傾向にあった ($p = 0.17$)。以上より LA は OA と遜色ないと考えられた。また当院の術後成績は、諸家の報告と比較してほぼ同等の成績であり、当院の LA の安全性、有効性が確保されていると考える。今後複雑性虫垂炎に対し腹腔鏡手術を第1選択に行いたいと考える。しかし、患者背景、術者の技量を考え腹腔鏡下手術の選択を慎重に行う必要性がある。

はじめに

急性虫垂炎は、急性腹症の中で罹患率が高くよく遭遇する疾患である。近年腹腔鏡手術が普及し、手術方法も様変わりしてきている。しかし、複雑性虫垂炎では術後合併症が多いと報告され、腹腔鏡下手術の評価は定かではない。そこで、当院で施行した複雑性虫垂炎に対する腹腔鏡下手術と開腹手術とを比較検討し腹腔鏡下手術の安全性と有

効性について検討した。

対象と方法

今回、病理学的組織診断、術中所見から壊疽性虫垂炎、穿孔性虫垂炎、膿瘍形成症例を複雑性虫垂炎と定義した。2011/1月から2017/12月に虫垂炎の診断で虫垂切除を受けた患者は303名であり、そのうち複雑性虫垂炎は97 (32.0%) 例あり、今回の検討対象とした。97例中腹腔鏡下手術 (Laparoscopic appendectomy: LA 群) が63例 (64.9%) に施行されていた (図1)。LA 群では、盲腸切除1例が含まれ、開腹虫垂切除 (Open

Toshirou WAKATSUKI et al.

松江市立病院消化器外科

連絡先：〒690-8509 島根県松江市乃白町32-1

松江市立病院消化器外科